

ゆうかり放送委員会提供  
**ゆうかりに乾杯**  
 第110回放送の概要 (2016年3月26日放送)

**パーソナリティ**  
 さくら  
 (安本久美子)  
 たろう  
 (佃 由晃)  
 なか  
 (中嶋邦弘)  
 かりん  
 (妹尾優香)  
 あな  
 (岸本幸恵)



**ミキサー**  
 門ちゃん  
 (門田成延)  
  
**相談役**  
 わだかん  
 (和田幹司)  
  
**会計**  
 小山俊則

(CM) 神戸で乗って一番楽しいタクシーそれはペリーヌタクシーです。優しさと安全・安心を乗せて走ります。観光・ゼミ・研修・福祉輸送等乗れば心温まり、思わず笑みが浮かぶ、心を結び、出会いを作るタクシーです。本日は誇りと信頼の良質なサービスを提供する、ペリーヌタクシー様 (電話078-521-0046) の御協力を頂きました。

(CM) 尼崎で配電用部品を製造している、「オーテック」という会社ですが、そのかたわら、2種類の米焼酎、「ダンディーズスマイル」と「親父のほほえみ」を販売しています。水割りでおいしく、お米のまろやかさを感じられる米焼酎です。身体を酸化させる原因となる活性酸素を、減少させ、老化予防、美容に有効な、「水素水」の販売も行っています。本日は、尼崎市の、オーテック様 (電話06-6489-1314) の御協力を、頂きました。

**1. ゲストコーナー：原汲古堂 表具師 中嶋和秀さん (54 陽会)**

表具師の基本的な仕事は、古い物を修繕し後世に伝える事。先輩表具師が修復してきたので、今も博物館などで見る事が出来る。表具は中国から仏教伝来と共に伝わったとても古い技術です。屋号の「汲古堂」は兵庫高校にゆかりのある、先代と親交のあった深山龍堂先生 (1903~1980) につけて頂いたものです。



深山龍堂先生の命名

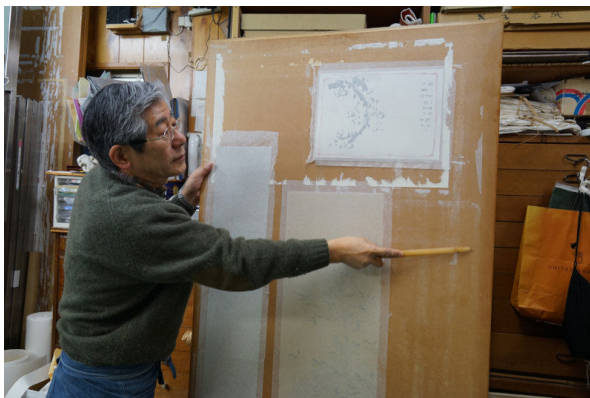


原汲古堂

中嶋さんの奥さんは、先代の原靖さんの3姉妹の真中で、跡取りがいなかったため次男である中嶋さんが、「原」の名前を残した原汲古堂を継ぐことになった。表具師の仕事は初めてであったが、すんなりと入ることが出来た。実家は電気工事店で、仕事が違っても、ものづくりという意味では基本は同じで、仕事さえ覚えれば生活態度は変わらず苦にならなかった。中嶋さんのお父さんの教えで「職人は見て覚え、体で覚えてやれば何でも出来る」と言われてきたので、挫折することなく続けてこられた。世の中には自然で出来たものと人工で出来たものがある。自然で出来たものは人間は絶対作ることは出来ないが、人の手で作ったものは努力すれば作ることが出来る。出来ないのは自分の努力が足りないと思って取り組んできた。今もまだまだ努力をしないといけない、勉強することが一杯あるという気持ちで過ごしている。

中嶋さんは、昨年「現代の名工」の表彰を受け、また平成21年度の神戸マイスターに認定されている。神戸マイスターに認定されている表具師は4人。表具の内容は軸装、額、屏風、衝立、巻物、襖など種類が多い。和本は絹糸で綴じたりするが、綴じ方の種類は沢山ある。経本に使われる折本などもある。

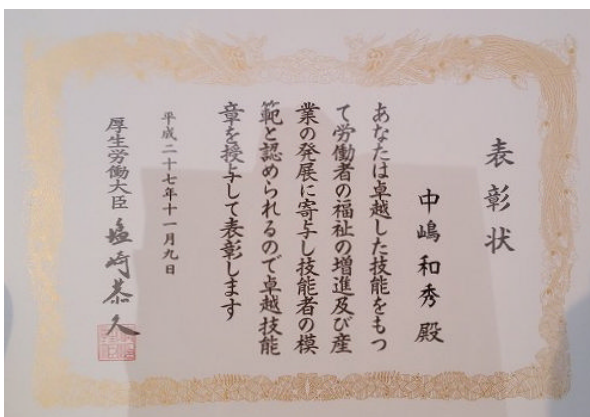
このような表具師としての経験を積むには最低5年間修行し、その後5年間自ら経験を重ね、少なくとも10年経たないと1人前にはなれない。修行時代は親から教えてもらうより同業者の所で修行する方が、他人のルールに従うことで気配りなどが勉強出来るので、徒弟制度が今も優れた方法として取り入れられている。中嶋さんも弟子をとって、家族の一員と思って教えている。しかし最近では会社員感覚で修行している。原汲古堂の仕事ははかなの書が多いので、特に万葉仮名の勉強も欠かせない。



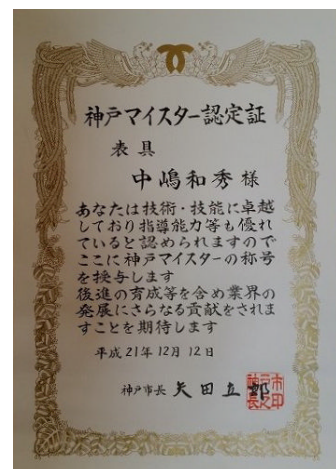
仮張に裏打ちした作品を張り乾燥



裏打ち済の状態



「卓越技能章（現代の名工）」



「神戸マイスター認定証」

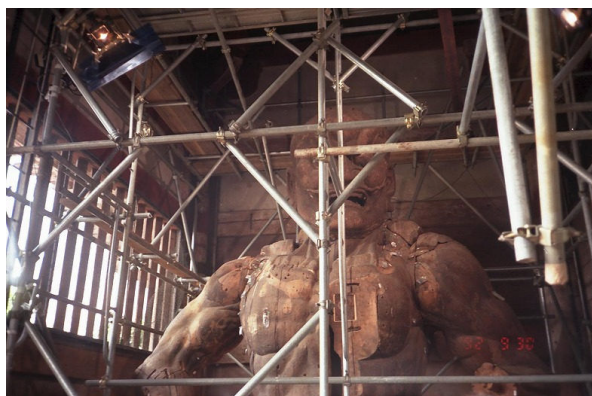
## 2. ミュージック：卒業写真 荒井由美

### 3. ゲストコーナ (2)

兵庫高校では中学時代に体が弱かったので、鍛えるために柔道部に入部していた。運動部の練習が厳しいと思ったことはなかったし、しごきと言われるようなものも無かった。2年上の先輩が個人戦で全国大会に出場している。中嶋さんはレギュラーではなかったが同級生に3人強い人がおり、団体では常に県大会でベスト4ないし8に入っていた。顧問の山内先生は、練習前に来た後は女子バレー部を見に行っていた。バレー部は国体に出場したと思う。

表具の仕事は、書道の日展、読売展、兵庫県展などの公募展（仮名部門）に関わるものが主になっている。古い掛け軸などの修復は、一般の人からの依頼、お寺や博物館からの依頼などがある。表具で使用する和紙は、雑菌の少ない冬の冷たい水を使って漉く（寒漉き）が、最近は少なくなっている。近辺の名塩の紙も貴重品になっている。

中嶋さんは、東大寺南大門の金剛力士像（阿形像）を修復のため分解した時に発見された、胎内経六巻の新調に奉仕した。東大寺は胎内経新調のため、全国の書家（兵庫県では桑田笹舟先生他）に写経を依頼した。出来あがった写経を中嶋さんが巻物にした。胎内経として戻すもの六巻の他に、展示用として六巻作成した。巻物の奥付に装丁作業奉仕者として、先代の原靖さんと中嶋和秀さんの名前が記載されている。また軸にも名前が書かれている。書道で使われる日本の墨は、書かれた和紙や木が朽ちても墨で書いた文字は残るほど品質が良い。



東大寺南大門金剛力士像



胎内経



新調した胎内経



奥付に装丁作業奉仕者の名前記載

皇室関係では、紀宮内親王が1年に17首、自詠の御歌をかきとめられた短冊を保存するための画帖を、10年以上にわたって中嶋さんが作成してきた。作成にあたって気をつけたことは、生地がダブらない事、短冊に使用される和紙（料紙）は、いろんな色がついているので、その色との調和を考えた。また皇后陛下のお懐紙挟み等、制作を承っている。今までに4代の女官長さんに仕えてきた。

習字の勉強については、高校の選択科目として書道を選び、深山龍堂先生の弟子の難波祥洞先生に学んだ。深山龍堂先生は、昭和23年に一東書道会を創設され、現在一東会は深山龍洞先生の精神を井茂圭洞先生（44陽会）が会長として引き継いでいる。

表具師の文化を継承し後継者を育てる取り組みとして、表具の仕事内容を理解してもらうために、神戸国際展示場で毎年11月に開催される県の「技能グランプリ&フェスタ」では、子供達にミニ屏風を作ってもらって体験会を行っている。県からの依頼で県下の中学生を姫路のものづくり大学で、厚労省からの依頼で小学生に教えている。9月に県民会館で兵庫県表装内装組合連合会が表装展を開催している。

（注）「技能グランプリ&フェスタ」は、次世代を担う子供達や市民に、ものづくりの大切さや楽しさに触れてもらい、技能への理解を深めてもらうことを目的に開催している。

兵庫県は書家、表具師のレベルが非常に高い。特に仮名に関するレベルが高い。井茂圭洞先生が、仮名をユネスコの世界文化遺産に登録すべく活動されている。漢字はすでに中国が登録している。



原書 井茂圭洞先生



四綱領の碑



質素



剛健



自重



自治

中嶋さんの座右の銘は「残心」です。柔道、華道など「道」にはすべて残心がある。仕事に対する残心は、自分が作ったものを顧みること、常に課題を見つけ次の仕事に生かしていくこと。足らずを補っていくこと。



ミニミニ同窓会（2015年8月）

#### 4. 地域瓦版

武陽会ホームカミングデー2016が、3月27日（日）10時～15時に武陽ゆーかり館、兵庫高校内で開催されます。書道展、書道パフォーマンス、野球部OBと神戸高校OBとの定期戦、13時30分から、読売TVアナウンサー脇浜紀子さん（72 陽会）の講演、校内見学ツアー、記念室開放などがあります。

#### 5. その他

FMわいわいは地上波の放送を、3月31日で終了します。4月以降についてはインターネット放送により再開すべく、具体的方法を検討中です。「ゆうかりに乾杯」は、今回の110回放送で取りあえず終了しますが、今後はインターネット放送を通じてお届けする方向で検討しています。引き続き皆様方のご支援ご協力をお願い致します。

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>